

「収穫後、調整作業をするまでの間、東にして立てておきます。長期間立てておくと普通は曲がってしまうのに、曲がらなかつたんです。」「それからもう一つ。ネギの葉の中には『ヌル』という液体が溜ります。これが調整作業の邪魔になり、しかも、この液体がネギに着いた状態で出荷すると、市場から『異物が付着している』とクレームが付くんです。硫黄コートで栽培したネギには、この液体がほとんど溜つていなかつた。これには本当に驚きました。仲間の農家に話しても信じてもらえないんです。」

予想外の現象に、福士さんも戸惑つたそうです。



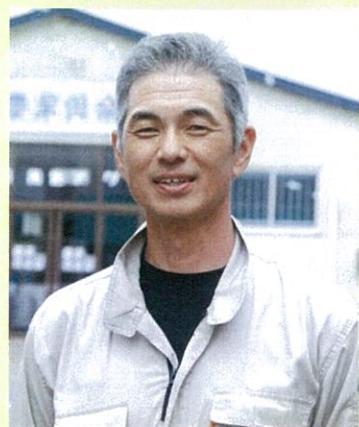
収穫風景。専用の収穫機械での作業。折れない、割れない。

栽培している作物の葉色は、濃い方が好まれますし、安心します。しかし、福士さんは違いました。

「収穫直前の葉色が、以前使っていた肥料よりも淡く若々しい、そいういった姿だつたんです。さらに収穫を始めて、ネギに触つて直ぐに肌艶がとてもいいことに気が付きました。肉質もきめ細かくてしつかりしている。しかも適度に厚みがあつてコシもあり、折れにくいくらい。収穫作業がとても楽でした。」

## ■理想の長ネギ

専用肥料の溝施肥で  
理想の長ネギ栽培を実現



長ネギは栽培期間が半年以上と長く、栽培中の土寄せ作業など、非常に手間のかかる作物です。

今回ご出演いただいた福士保洋さんは、秋冬採り長ネギの他に水稻、初夏から秋にかけて収穫するキャベツ、枝豆も栽培されています。

現在使われている専用肥料の開発にまつわるお話や、理想とする長ネギについてお聞きしました。

## 現地レポート 秋田県八峰町



 サンアグロ  
SUN AGRO CO., LTD. •••

■元肥全量を溝施肥



施肥風景。苗を植える溝の底に施肥する『溝施肥』。

■元肥一発型肥料を導入専用肥料開発までの道のり

「長ネギ栽培を始めた頃は、元肥と4～5回の追肥をやっていました。省力化が一番の目的でしたが、天候の影響などで適期に追肥が出来ないこともあり、元肥一発型肥料を導入しました。」  
福士さんは就農21年のベテラン農家。長ネギ栽培は15年ほど前から始めたそうです。

「3年ほど樹脂コートが配合された肥料を使つていましたが、ネギの生育が停滞する夏場に効き過ぎるようで、なかなか理想とするネギができませんでした。」  
全体的に軟弱で、ベト病が多発したそうです。

## ■ 農業は『生きざま』



定植風景。施肥された肥料は分散され肥焼けしない。ド

A large pile of green onions or scallions is shown, tied in several bunches. The onions are long and thin, with a vibrant green color. They are bundled together with white plastic ties and some black rubber bands. The background is a plain, light-colored wall.

調整前保管中のネギ。曲がらない。

福士さんは地域のリーダー的な存在で、地元の農協では部会長も務めておられます。とても勉強熱心で、観察力の鋭さにも驚かされます。

そんな福士さんに聞いてみました。  
「福士さんにとって農業とは何ですか？」

「生きざまみたいなものです。職業と言ふより生業。生きていくために必要な仕事だと思つていいので、生きざまそのものが出るんじやないかと思つています。」

迫力ある言葉に、思わず息を呑みました。  
『生きざま』という言葉は、福士さんそのものです。

ありがとうございました。

「3年前に出羽青岩アグロ㈱の大谷さんから、硫黄コートを使つた肥料を紹介され、試験的に使つてみました。しかし、1年目は思つていたような生育にならず、改善するようお願いしました。」

この年は生育途中で、肥効が不足した  
そうです。

「配合内容を改良した結果、2年目は栽培期間を通して肥効が安定しました。特に、夏場の生育状況は私が理想としている姿そのもので、とても驚きました。3年目からは全面採用させていただきました。」

『日産マイルドスペシャルブレンドネギ専用25-7-6』の誕生です。